

## より便利に、楽しい 仙台駅をつくりながら、 仙台・宮城DCを 盛り上げてまいります。

東日本旅客鉄道(株)  
取締役仙台支社長

さとみ まさゆき  
**里見 雅行**氏

### プロフィール

昭和30年11月4日生まれ。神奈川県横浜市出身。血液型B型  
東京大学法学部を卒業後、昭和55年日本国有鉄道に入社。水戸  
鉄道管理局旅客課長、人事課長を経て、62年の国鉄民営化に伴  
い、東日本旅客鉄道(株)に入社。新潟支社人事課長、横浜支社  
総務部長、経営管理部次長、取締役総務部長を歴任し、平成22  
年6月より現職。「社内では『究極の安全を目指そう』を合言葉に  
しています。安全というものに“絶対”はありません。だから、どこまでも  
100%に近づける努力を続けること。これが大切だと思っています」と話す。



### 自由通路を16メートルに拡幅 商業施設も展開

「仙台駅の再開発が進んでいますが、その内容、めざす姿についてお聞かせいただけますか。」

仙台駅全体を見ますと、どちらかといえば西口側に改札口やさまざまな施設が集積していることもあり、東口は少し殺風景な印象があります。そこで東口を中心に開発を進めながら、仙台駅の西と東をつなぐ自由通路を仙台市とともに現在の6mから16mに拡幅、その周りに私どもが商業施設などを展開することで、東口にしっかりとした「顔」をつくり、仙台駅全体として賑わいを創出していくことをめざしていきます。

東口は、特に野球の試合がある時などは大変混み合います。ですから新たに自由通路の途中に改札口を設けて、東口からも利用しやすい駅にしようと計画を進めています。また新幹線と在来線との乗り換えも、現在は中央改札口の方からしか行えない状況ですが、南口側からの乗り換えができないだろうかと、現在、検討をしているところです。自由通路は2015年度の供用開始を予定していますが、これを契機に仙台駅とその周辺、そして仙台の市街地を楽しんでいただくための「玄関口」として機能する駅に成長させてまいります。

### 観光が果たす 震災復興の役割

「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(以下、DC)が来年の4月から始まります。DCとは、自治体、観光事業者、JRグループ6社が一体となって実施する大型観光キャンペーンのことですが、前回の開催からわずか5年で再び開催されるのは、異例なのだそうですね。」

そうですね。前回の仙台・宮城DCは、それまで全国で行ってきたDCの中でも、大変な成功例として高い評価を受けています。その実績があること、もうひとつは震災と風評被害によって、宮城の観光地は大変苦しんできましたので、そうした中で観光をしっかりと復興させていくことが大切であるということから、来春の仙台・宮城での開催につながったわけです。ですから「震災からの復興」という視点も重要な柱として掲げながら、DCを遂行していくことができればと考えています。

「どのように地域を盛り上げていくとお考えですか。」

まず被災地も含めて、いろいろな場所をPRしたいですね。国内外からたくさんのお客様に来ていただき、被災地の現状を正しく理解してもらうことが大切だと思います。



広々とした空間に、便利な機能と楽しさがちりばめられた  
仙台駅東西自由通路完成イメージ図

それから仙台・宮城のDCではあるけれども、宮城にだけ来て終わりにするのではなく、岩手、山形、福島にも足を伸ばしていただくことも含めて、少し広域的に進められればと考えています。

さらに被災地も含め、おいしい食べ物をご紹介したいですね。漁業、農業も少しずつ復興の兆しをみせていますし、宮城を楽しんでいただくには、「食」は大切な要素だと思います。特にこの地にあつて昔から愛されているおいしいもの、また、それと合わせてその地域に住んでいらっしゃる方々には、おなじみの神社・仏閣なども、その由緒

ある歴史、物語をしっかりと紹介していきたいと思えます。

それにはお客様をお迎えする私たちが、まず自分たちの地域の文化や歴史について語ることができるとかどうにかかっていると思えます。ぜひ今回もボランティアのガイドさんを含め、たくさんの方に協力していただき、それぞれの立場で、できることを実践して仙台・宮城を訪れるお客様を歓迎していただきたいと思えます。

その一方で、宮城の観光の弱点といえば、なかなか海外のお客様に来ていただけないということが挙げられます。東北は他の地域と比較して、インバウンドの面では少し弱いところがあったわけですが、風評を含む震災の被害によって、海外の方が東北に対し、マイナスの印象を持ってしまったのも非常に残念なことです。そういった意味でも海外、特にアジアの方々に来ていただけるようにしたいですね。

### 新函館開業で 交流がますます盛んに

— 北海道新幹線新函館開業を2015年度に控え、今後の東北と北海道の連携をどのようにお考えですか。

新函館が開業しますと、今にも増して北海道が身近に感じられると思います。東京―北海道間であれば、飛行機の方が速くて便利だという方もいらっ

しやると思いますが、東北―北海道間なら新幹線が便利です。新幹線をご利用いただくことで、北海道と東北との交流をこれまで以上に深めることができるのではないかと思います。東北と北海道は、歴史的にも非常に交流が深いわけですから、つながりを大切にしていってほしいと思います。ビジネス面、経済面、文化の交流にとどまらず、楽天イーグルス・マイチム協議会が北海道日本ハムファイターズを応援する会との交流会を毎年実施しているように、スポーツの交流も今後はより活発になってくれると嬉しいですね。

新函館が開業する2015年度は仙台駅東西自由通路が供用を開始し、仙台市地下鉄東西線も開業しますので、記念すべき年になります。その先も、私どもは「究極の安全」を追求し、努力を続けてまいります。

#### 【概要】

### 東日本旅客鉄道(株)仙台支社

設立: 昭和25年8月1日 仙台鉄道管理局発足。62年4月1日 国鉄分割民営化により東日本旅客鉄道(株)東北地域本社となる。平成10年4月1日 東日本旅客鉄道(株)仙台支社に改組。

代表者名: 取締役仙台支社長 里見 雅行

所在地: 仙台市青葉区五橋1丁目1番1号

TEL.022-266-9611

管理路線: 宮城県、山形県、福島県の南東北3県を管轄。

ホームページ: <http://www.jr-sendai.com/>

# 街

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす  
**AOBA 青葉環境保全**  
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)